

## 第2回 社会福祉センター指定管理者選定評価委員会 議事録

日 時	令和4年9月6日（火）午後6時00分～午後8時20分
場 所	横浜市役所 18階 みなと4会議室
出 席 者	選定委員：阿部委員、小澤委員、須山委員、平野委員、山野上委員 事務局：内田地域福祉部長、柿沼地域支援課長、花摘担当係長、奥田職員
欠 席 者	なし
開催形態	公開（傍聴者：0名） ※議題3（3）は非公開
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 第2回選定評価委員会の進め方について</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 財務状況、その他報告について</li> <li>(2) 面接審査（プレゼンテーション及び質疑応答）</li> <li>(3) 審査 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 意見交換及び採点</li> <li>イ 指定候補者の選定・総評</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>
決定事項	指定候補者として「社会福祉法人横浜市社会福祉協議会」を選定し、市長へ報告する。
議 事 等	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会 選定委員5名中5名出席。半数以上の出席により、本委員会は成立。</li> <li>2 第2回選定評価委員会の進め方 事務局から資料1に基づき説明</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 財務状況、その他報告について <ul style="list-style-type: none"> <li>・小澤委員より、応募団体の財務・経営面に対する評価と指定管理料提案書及び収支予算書に対する評価について説明。</li> <li>財務面の評価の視点として「直近の貸借対照表が債務超過ではないこと」等4項目について分析した結果、特に重要な問題はないこと、指定管理料提案書等は計画の妥当性、実現可能性に重要な問題は見受けられないことが報告された。</li> <li>・事務局から、応募団体の欠格事項に関し、市税納付状況の対応及び暴力団排除措置への該当について、関係機関へ照会した結果、どちらも問題はなかったことを報告。</li> </ul> </li> <li>(2) 面接審査 応募団体からのプレゼンテーションの後、質疑応答を行った。</li> </ol> </li> </ol>	

## 【主な質疑応答】

(須山委員)

- ①人員配置の中で、障害者雇用は1名だけか。少ないのではないか。障害者雇用の促進を考えて欲しい。
- ②災害時の避難シミュレーションは、車椅子だけか。高齢者や子どもの想定はどうか。
- ③以前、談話室に市民の作品を展示・販売していたことがあると思う。障害者の作品の販売は考えていないか。
- ④太陽光を使用する等のコスト削減は考えているか。
- ⑤職員研修に、障害特性に関する研修はあるか。

(応募団体)

- ①社福センターでは1名だが、法人全体では、法定雇用率に達している。  
積極的な雇用に努める。
- ②車椅子だけでなく、職員の訓練で、高齢者や障害者を想定した模擬訓練を行っている。社福センターの利用者の交流会で、視覚障害者の誘導について説明してもらう予定もある。
- ③いこいの広場のショーケースで展示販売をしていたが、障害団体の意見を聞きながら、作業所の販売促進はしていきたい。
- ④屋上に太陽光パネルの設置を検討したことはあるが、風が強いため、設定が困難かと思っている。他にもコスト削減には努めていく。
- ⑤障害特性に応じた対応について研修がある。法人全体では、人権研修の中で、障害当事者を講師とした研修も行っている。

(山野上委員)

- ①ボランティアの相談内容もが多様化しているのでは。みなとみらいエリアは住民も増えている。最近の傾向はどうか。
- ②非常勤職員も多いが、非常勤職員の育成はどうしているか。
- ③職員研修の中で、障害当事者が活躍する場面を設けているか。

(応募団体)

- ①直近のボランティア相談件数は昨年度の倍になっている。みなとみらいエリアだけでなく広範囲から相談を受けている。メールやwebフォームでの問い合わせも増えているので、相談方法の選択肢は増やしていく。
- ②コーディネーターによる専門的な研修やグループワークを行い、スキルアップを図っている。
- ③法人全体での取り組みになるが、障害の支援者ではなく、当事者に触れる機会を設けるようにしている。また、企業や学校への福祉教育の支援を行う中でも、障害当事者の意見を取り入れることを重視しており、当事者が様々な場面で説明できるよう、当事者講師の養成講座も進めている。

(須山委員)

(山野上委員の③の質問について) 身体障害者連盟に、当事者講師が紹介されているので、活用して欲しい。

(応募団体)

了解した。横浜身体障害者団体連合会のサイトも活用している。

(阿部委員)

コロナ禍ではハイブリットなどオンライン会議開催が増えていると思うが、貸室でオンライン会議を行う環境は整っているか。Zoomをインストール済みのパソコンの貸し出しはしているか。オンライン会議に適する集音マイクはあると良いと思うが、要望はないか。

(応募団体)

Zoomを予めインストールしたパソコンの貸し出しは行っていない。利用団体も使い慣れているものを持ち込んでいただいている。プロジェクターの貸し出し・設定のお手伝いはしている。Wi-Fi環境は整っている。集音マイクはなく、今のところ要望もないと認識している。

(小澤委員)

- ①事業計画書の「施設の管理運営」で、オンライン配信へのニーズへの対応で、Wi-Fi整備が挙げられているが、現状維持なのか、オンライン会議等への追加対応なのか。
- ②指定管理料の収支予算書では、収入見込みは達成可能なのか。達成できなかった場合はどうするのか。

(応募団体)

- ①現状でも整備されており対応はしている。ニーズを把握した上で、予算に応じながら追加対応を検討していく。
- ②コロナ禍前の令和元年度の実績を踏まえて、収支予算を組んだので達成可能とは考えているが、達成できなかった場合は事務局のコスト削減で対応する

(平野委員長)

次期指定管理者になった際に、取組を進めてほしい視点をお伝えしたい。

- ①質の高い専門職をどう育成していくかと、人件費を抑制していくかは相反するが、上手くバランスをとってほしい。
- ②利用収入を得ながらも、地域福祉の促進を進めることも、バランスが必要。
- ③みなとみらいエリアには大学の誘致が進んでいる。みなとみらいエリアの立地を生かして、若者との連携や若者向けの取り組みも検討してほしい。

<以降、非公開>

(3) 審査

ア 意見交換及び採点

意見交換後、各委員の採点、集計、採点理由の相互確認、最終採点を実施。

(委員)

応募1団体なので、比較対象がなく、判定基準がわからない。各委員はどのように採点をするイメージか確認したい。

(委員)

審査の視点を満たして入れば3点(標準)、満たしていなければ2点以下  
団体特有の長所があれば4点、内容が更に素晴らしければ5点と考えた。

(委員)

比較対象がなかったため、基本を5点とし、事前資料において内容確認が必要な個所については3点にし、当日のヒアリングで確認し点数の調整をすることにした。

(委員)

5点を基準にし、足りない分を差し引く減点方式にした。

(委員)

採点結果を見ると、委員により5点と3点が付いている項目はあるが、意見調整は不要と考えるかどうか。

(委員一同)

異議なし

## イ 指定候補者の選定・総評

### ○指定管理者の選定

応募団体名	総得点
社会福祉法人横浜市社会福祉協議会	842点

※ 満点：1,000点（各委員200点×5名）

※ 最低基準：600点（満点の60%）

総得点は最低基準を超えており、指定候補者として、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会を選定し、市長へ報告する。

### ○総評

(事務局) 最終採点結果及び資料4「選定結果報告書(案)」について説明。

(委員)

- ・長年指定を受けてきた実績を評価し、相対的に高得点にした。
- ・他の委員の意見や応募団体とのやり取りを聞き、例えば、障害者雇用に関しては、法定雇用率だけではなく、大切にしていけるべき視点があると感じた。

(委員)

- ・他の団体にはなかなか担えないのではないかと感じた。
- ・競争が必要な業界ではないかもしれないが、オンライン対応には遅れがみられると感じた。時代のニーズに迅速にこたえることも必要。

(委員)

- ・市民活動やボランティア活動は、近年、変化が大きいと感じる。社会の変化に臨機応変に対応していくことを期待する。
- ・また、現場の変化やニーズを横浜市の施策に反映できるよう、横浜市と協議してほしい。

(委員)

- ・5点は伸びしろがないと考えて、5点はつけなかったため総得点が低くなった。
- ・伸びしろがあると思う項目は3点にした。
- ・事前に送られてきた資料の確認が大変であったが、事務局が該当ページを審査表に示してく

れたので、資料確認がしやすかった。

(委員)

- ・応募団体は1団体だったが、本施設の指定管理は応募団体だからこそできると思う
- ・行政ではない応募法人だからこそその視点、取組をしてほしい。
- ・利用者やボランティア団体だけでなく、職員も大切にして欲しい。  
だからこそ障害者雇用の取組についても期待したい。
- ・ネットワークづくりは、応募法人の強みであり、応募法人だからこそできることだと思うので、高得点になっていると思う。これをしっかり取り組んでほしい。

(委員)

選定結果報告書の総評欄について、最終採点結果及び委員の意見を踏まえてまとめることとする。

(委員一同)

異議なし

4 閉会

以上

資 料	【資料1】第2回選定評価委員会の進め方について 【資料2】応募団体の財務・経営面、指定管理料提案書及び収支予算書に対する評価について 【資料3】採点表(様式) 【資料4】社会福祉センター指定管理者選定結果報告書(案)
-----	---